



☆「QRコード」を読み取って閲覧☆



「きずな」の定期配布
「きずな」は、市政や市議会など身近な情報を提供する地域情報紙をめざしています。定期的な配布(無償)希望の方は連絡を下さい。

井上勝博市議の一般質問

おれんじ鉄道、データセンター、給食無償化

6月22日(月) 午前10時から

薩摩川内市議会6月定例会で、日本共産党の井上勝博市議は、6月22日(月)の1番目、午前10時から一般質問に立ちます。今回の質問の聞きどころを紹介しします。ぜひ議会傍聴においでください。

井上勝博市議が市長の姿勢をたずねる

肥薩おれんじ鉄道の安全

肥薩おれんじ鉄道 ところが、出水市のは、通勤、通学、通院、買物を支えるとともに、観光や貨物輸送を担う重要な鉄道です。

米之津川に架かる広瀬川橋梁は、建設から100年以上が経過し、補修工事が必要とされ

も大きな影響を及ぼします。井上市議は、橋梁の現在の安全性や補修期限について市がどこまで把握しているのかをたずねます。

音楽に託された平和への願い



演奏するチェ・ソンエさん(7日、東郷町)

戦争と平和を考えるコンサートに100人超

6月7日、東郷公民館ホールで、ピアニスト崔善愛(チェ・ソンエ)さんによる「戦争と平和を考えるコンサート」が開かれ、市内外から100人を超える市民が参加しました。

参加者からは、「一つの映画を見たような充足感」「曲の背景を知り、音楽の聴き方が変わった」との感想が寄せられ、戦争と平和についても「戦争はすべてを滅ぼし、平和はすべてを生かす」「声を上げ続けることが平和を守る」との声がありました。

こちらくらしの相談所
(No. 653)
携帯 080-3996-0237 (井上)
なんでもご相談ください。

崖崩れの相談を受け、市へ早急な対応を要望
「崖が崩れて水路がふさがっている」との相談を受

け、現地を確認しました。ちょうど相談者から電話を受けて車を止めた場所が、その崖崩れの現場でした。現場は、樋脇町塔之原の市道新田山線と県道山田入来線の交差点近くで、崩落した土砂が水路をふさいでいる状態でした。

水、さらなる土砂崩れなどの災害につながるおそれがあります。そこで薩摩川内市に対し、現地の早急な確認と、水路をふさいでいる土砂の撤去、必要な崩落防止対策を求める要望を行いました。

課題として取り上げる
こと、広瀬川橋梁だけでなく全線の橋梁の建設年、健全度、補修計画、事業費を明らかにすることを求めます。

漁業権や河川環境に配慮しながら、安全を最優先に解決するため、第三者を交えた調整の場を設けることも提案します。

入来工業団地と川内港背後地(サーキュラーパーク)で計画されているデータセンターについて質問します。大規模なデータセン

データセンター計画

(2面に続く)

2026年
国民平和大行進
(薩摩川内コース)
核兵器のない平和な世界を!
今年6月22日(月) 午前9:00スタート!
市役所正面玄関(センノオト側)
みんなで歩いて、平和をつなごう!

井上勝博市議の一般質問(1面から続く)

ターは、大量の電力と冷却用の水を必要とします。道路や上下水道、電力関連設備などの整備に、どれだけの市民負担が生じるのかが問われます。

井上市議は、計画の規模や事業主体、市の財政負担、電力と水の使用量、雇用効果環境への影響を明らかにするよう求めます。

また、データセンターの電力需要が川内

中学校まで給食無償化を

食材価格が高騰する中、学校給食の質と量を維持し、保護者に新たな負担を求めないための財源確保について質問します。

国は、給食費の基準額を超える部分について「重点支援地方交付金」を活用できるとの考えを示しています。

井上市議は、この交付金や市の一般財源を活用し、必要な財源を確保するよう求めます。

県内では、すでに24自治体が中学校までの学校給食費無償化を実施しています。国に無償化の拡大を求め

エプロンおばさんの簡単クッキング (707)



チンゲンサイの黒酢からしあえ

【材料 (2~3人分)】

チンゲンサイ 2株、しょうが 1片 (千切り)
 A: しょうゆ・黒酢・ごま油 各小さじ 2、
 練りからし 小さじ 1/2

作り方

- ① チンゲンサイを縦半分に切る。
- ② 塩少々を入れた熱湯で1分ゆで、水気を絞って食べやすく切る。
- ③ しょうがとAをあえる。

※ 1人分 53kcal、塩分 1.0g。

No. 76



シネマ太郎の映画評と案内 箱の中の羊 (2026年)



箱の中の羊



日泰食堂

是枝裕和監督の映画は、あることに関して積み重ねた思索を深く込めながらも、あえて核心を語らず、観客に答えを委ねるような作品と私は思っているのですが、その新作です。

先月、カンヌ映画祭で上映され、話題になりました。小高い丘に連なる住宅地を俯瞰でとらえた映像。のどかな風景。すると、蜂が飛びよる。音が、音が、音が。次第に大きくなって。ドローンによる宅配です。この映画は、近い未来の設定ですが、ドローン宅配などは近い現実かもしれません。

デザイナーズハウスのような洗練された戸建てに住む夫婦(妻、音々(おとね)、綾瀬はるか)、夫、健介(大悟)。妻は建築士。フリーランスのよつで、自宅が仕事場。顧客には細やかな気配り。見た目がやや粗暴で、態度がぶっきらぼうな夫は工務店を営んでいます。妻は興味深々、夫は洪々ながら、夫婦はある製品の説明会に参加します。その製品とは、ヒューマノイド(人型ロボット)。実物をみた夫婦はあまりの精巧さに驚くばかり。そして、その提供を受けることにするのです。実は夫婦には息子がいたのですが、ある事故(事件)により亡くなってしまったので、息子とそっくりのヒューマノイドを迎える。妻はうきうきと準備。しかし夫は日に日に複雑な心境に。ついに自宅に、届く、のですが。5/31付け赤旗日曜版に是枝監督のインタビューが掲載されています。映画のきっかけは、死んだ人をよみがえらせるビジネスが中国で人気という記事を見たこと。それは、生成AIが作成した死者とパソコンで会話ができるというもの。死者の存在とはどういふことなのか。独特の空気感に引き込まれる映画です。天文館シネマパラダイス、T.O.E.O.シネマズ、与次郎、鹿児島ミッドテ10、シネマサンシャイン始末で上映中。さて、気になる次の映画は、「日泰食堂」(6/4~6/11)、ガーデンスシネマ)です。

るとともに、薩摩川内市が独自に中学校まで無償化する考えはないかをたじます。市民の安全と暮らし、子育てを守る市政になつていのか、市長の姿勢が問われる一般質問です。ぜひ傍聴にお越しください。

■日時 6月22日 (月) 午前10時から
 ■場所 薩摩川内市議会本会議場(本庁舎3階)

中俣先生のつれづれなるままに (837)



←中俣先生のブログはこちら



地区委員会に行くまっすぐに道を車に揺られていくとき、私の視線は傷みと懐かしさが西に走る道に流れる。最初の道は、五代の久留巢に通ずる一本道。道が坂に突き当たる右手に、二回りも違う姉が嫁いだ家があった。そこに記憶の波が打ち寄せる。特に夏から秋にかけて、それは濃い景色となる。あるときはトマトの収穫に。またある時はスイカを肩に。トマトは、今では五代焼酎の大きな工場が建っている辺りに、義兄を作っていた。中学校を卒業するまで、その収穫の手伝いによく出向いた。帰りは袋いっぱい、のトマトを手に、幼い足には遠かった道を歩いて帰った。スイカは、坂を上り詰めたところから左に折れると、広々とした畑が広がっていて、その一角にあった。スイカを取りにおいでという姉の声に、三つ違いの兄とよく出かけた。姉は一本の棒に、三つも四つもスイカを括り付け、堤防沿いに帰りなさいと促した。道でなく高城川の堤防だ。私たち兄弟はあまりの重さに、一つ一つ捨てて帰ろうかと話し合ったこともあった。もう一つの道は、途中の道路ミラーが立っている右手の細い道。その奥まった端っこに姪っ子の家があった。今は人手に渡り、生涯で二回しか訪れたことのない家だ。姪っ子は大阪からリタイヤした夫とそこに家を構えたのであるが、わずか十数年でその家を捨て、子どもたちのいる大阪へと旅立った。どんな生活をして、どんな生き方をしているのかと思えば傷みと懐かしが交差する。道は道。今や記憶に吹く風なのだ。(詩愛好家)